



臨床研修病院としての役割

地域の中核病院としての機能を有する当院において、最新の医療施術及び情報を提供し、病院全体として医師の臨床研修を積極的に支援する。

初期臨床研修

●理念

プライマリ・ケアから高度な医療まで幅広い経験を積むとともに、様々な医療従事者と密接な連携のもとで多くの患者に接することにより、医師として必要な人格を育み、広く社会の医療福祉に貢献できる人材を育成する。

基本方針

- ①臨床医として必要なプライマリ・ケアの基本的な診療能力（知識・技能・態度）を習得する。
- ②人として信頼される人格・素養を身につけ、思いやりの心を持って患者およびその家族に向き合い、患者中心の全人的医療を行える。
- ③チーム医療の一員としての役割を理解し、多職種と協働して診療することができるコミュニケーション能力を身につける。
- ④医療安全の本質を理解し、実践する能力を身につける。
- ⑤地域の中核病院としての役割を理解し、健康の保持、疾病の予防から社会復帰に至る医療全般の責任を有することを自覚し、行動できる。

松江研修医3病院のつどい場 ～マツケンサンバ～ 始動！

今年度より、松江圏域3病院による新企画がスタートしました！

松江赤十字病院、松江生協病院、松江市立病院の研修医が集まり、年3回の勉強会を開催します。
「松江研修医3病院のつどい場」略して…マツケンサンバ！！研修医の先生たちが考えてくれました。
早速今年度は…

- 6月28日（金）、「サルも聴診器」を極める第1弾！ ～ 心電図・レントゲンをマスターせよ ～
- 8月30日（金）、「サルも聴診器」を極める第2弾！ ～ 心エコー・腹部エコーハンズオンレクチャー ～
- 1月30日（木）、「サルも聴診器」を極める第3弾！ ～ 酸素・輸液 ～

を開催しました。

それぞれの分野でご活躍の講師の先生方をお迎えし、参加型・ワークショップ形式で行い、大いに盛り上がりました。

マツケンサンバ！！次年度以降も続きます！楽しみです。





01

研修に行ってきました



鳥取大学

2年次 葛尾 佑美

私は、鳥取大学医学部附属病院消化器内科で1ヶ月間研修をさせていただきました。研修内容は内視鏡検査・治療、外来予診、病棟管理など多岐に渡り、非常に充実した1ヶ月間であったと振り返ります。

中でも、内視鏡を握る機会を沢山いただけたことが印象的でした。フィードバック機能付きの高性能な内視鏡シミュレータが豊富にあり、基本的な操作方法や観察手順を自分のペースで繰り返し学習することができました。特に上部内視鏡の挿入での内視鏡の動きは、本を読むだけでなくシミュレータを用いることで動きのイメージを掴みやすかったです。それに加えて、積極的に内視鏡治療の介助をさせていただき、鉗子など処置具の使い方を学びました。処置具には様々な種類があり、それぞれ使い方のコツがあります。最初はわからないことが多かったのですが、先生や看護師の方々が大変丁寧に教えてくださり、出来ることが少しずつ増えていきました。検査や治療に加わることができ、この一ヶ月で今までよりもさらに内視鏡検査・治療に興味が湧いてきました。

指導医の先生をはじめ消化器内科の先生方、スタッフの皆様にお礼申し上げます。ご指導いただき本当にありがとうございました。

地域医療

2年次 野々村香澄

地域医療研修として、8月に鹿島病院にて研修をさせていただきました。鹿島病院は回復期機能、慢性期機能を持った病院であり、特殊疾患病棟、回復期リハビリテーション病棟、医療療養病棟の3つの病棟があります。当院や市内の他病院での急性期治療が終了した後に鹿島病院に転院となった方を複数人担当させていただきました。入院直後から退院時まで多職種カンファレンスを繰り返し、あらゆる側面から評価を行っていたことがとても印象に残っています。患者さんや家族の希望も共有することができ、より良いサポートに繋がっていると感じました。その他、訪問診療にも参加させていただきました。様々な事情で病院に通院できない方への支援に携わることができ、貴重な経験になりました。

1ヶ月間大変お世話になりました。今回学んだことを今後の研修に活かしていきたいと思います。ありがとうございました。

島根大学

2年次 野々村香澄

私は令和6年7月の1ヶ月間、島根大学医学部附属病院放射線治療科で研修をさせていただきました。

研修では、科内カンファレンスでの症例提示、外来や診察の見学、治療計画、他科との合同カンファレンスへの参加などを経験させていただきました。放射線治療科では全身のがんを治療の対象としているため幅広い知識が必要であり難しく感じましたが、先生方に熱心にご指導していただき、多くの学びを得ることができました。

また、神経内分泌腫瘍に対しテチウム-177の投与を行うなど、当院では実施していない高度な治療も経験することができ、大変貴重な経験になりました。

最後になりますが、指導していただいた先生方、看護師や放射線技師の方々などスタッフの皆様のおかげで有意義な研修を行うことができました。本当にありがとうございました。

一般外来

2年次 宮崎 洋佑

初期研修医2年目の宮崎と申します。2024年7月の1ヶ月間、大國内科クリニックで一般外来研修を経験させていただきました。大國内科クリニックでは内分泌疾患のみならず、循環器、呼吸器、消化器や脳神経など多くの内科領域を総合的に診療する能力が求められます。外来を受診する患者さんは1日に約50人以上にも及び、多くの方々は病状が安定し継続的なフォローを目的としています。しかし、日によっては症状が増悪した患者さんや急遽、発熱外来を受診される方もおり、限られた時間と医療資源で患者さんの病状に合わせて対応をすることが必要となります。松江市立病院のような総合病院であれば、必要なタイミングでCT検査を施行し、他の診療科の先生にコンサルトすることが可能ですが、それが困難な環境下において、医療知識を駆使して患者さんに対応することの困難さや大切さを、大國内科クリニックで学ばせていただきました。他にも定期検診や外来初診、採血や予防接種、X線写真撮影など、数多くの業務を経験させていただきました。

今回ご指導いただいた大國先生を始め、クリニックの皆様にご心より感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

02

内科学会中国地方会

2年次 葛尾 佑美

内科学会の中国地方会に参加しました。私にとって今回が初めての学会発表でした。発表内容について、自分の伝えたいことを整理してわかりやすくスライドにまとめることは大変でしたが、指導医の先生方からアドバイスをいただき修正を繰り返すことでまとまっていきました。発表前は緊張もありましたが、準備してきたことをできるだけわかりやすく伝えることに集中しました。入念に準備したつもりでも、質疑応答では質問の意図を汲んで簡潔に答えることが難しかったです。

これからも様々な学会で発表させていただく機会があると思うので、今回の経験を活かしより良い発表ができるよう努めたいです。指導してくださった先生方、本当にありがとうございました。



2年次 宮崎 洋佑

初期研修医2年目の宮崎と申します。2024年7月19日に米子コンベンションセンターで開催された、第62回日本肺癌学会中国・四国支部学術集会にて「S1が著効したROS1融合遺伝子変異陽性肺癌の一例」という演題で発表をさせていただきました。今回が私にとって初めての学会発表であり、抄録の作成方法や登録、スライド作成や発表の作法を始め、何もかもが全く分からない状態でした。しかし、学会発表に声をかけていただいた呼吸器内科の武田先生から学会発表のいろはを一から教えていただき、最終的には自分でも納得のいくスライドを完成させることができました。光栄なことに、発表当日は初期研修医セッションの優秀演題賞を受賞するという栄誉に預かりました。日々の業務でお忙しい中、貴重な時間を割いていただいた武田先生に心より感謝申し上げます。

今回の発表で同期と研鑽を積み、共に切磋琢磨できたことは私にとって非常に大きな人生の糧となりました。今後もこの経験を活かし、日々の業務に役立てていきたいと思っております。



1年次 黒田 町子

「胸腺がんの診断でがんゲノムプロファイリング検査を実施した1例」について、発表させていただきました。準備の段階では胸腺がんについて調べるなかで、がん治療に関する知識を深めることができました。がん治療において、治療効果の予測は、その治療を行うかどうかの重要な判断材料であり、胸腺癌のように稀でエビデンスの少ない癌においても、がんゲノムプロファイリング検査を予測手段として活用できることは非常に興味深いと感じました。学会形式での発表は初めての経験で緊張しましたが、和やかな雰囲気のおかげで安心して挑戦することができました。

また、他病院の研修医の発表を聞くことができ、大変勉強になりました。このような機会をいただけたことは、今後に繋がる素晴らしい経験だったと思います。ありがとうございました。

1年次 森脇友璃子

先日、山陰呼吸器臨床セミナーに参加し症例発表をさせていただきました。当院では毎週金曜日に研修医カンファレンスがあり、定期的に発表する機会が設けられていますが、院外で多くの専門医の先生方の前で発表したのは初めてで、貴重な経験となりました。松江・米子・鳥取から集まった他の研修医5名の発表は大変興味深い内容で、わかりやすいスライド構成やプレゼンテーション技術もさまざま見ることができ得られるものがたくさんありました。

今回の症例発表にあたり、ご指導・ご助言をしてくださった武田先生はじめ呼吸器内科の先生方、糖尿病内分泌内科の先生方には大変お世話になりました。発表の準備段階からセミナー本番でご指導いただいたことを忘れず、今後の発表機会に生かしたいと思っております。ありがとうございました。

1年次 元上俊太郎

1年次研修医の元上です。12月に福岡で行われた第37回日本内視鏡外科学会総会に参加してきました。

自身の発表はありませんでしたが、医局の先輩方の症例発表や、医療の最前線の発表を拝聴させていただくことで自分の知見を大きく広げることができました。特にAIを用いた手術支援についての発表では手術で剥離すべき層の色調を強調して示す技術を紹介しており、手術の安全性や術者の負担軽減に寄与すると実感しました。

今回は研修医になって初めての学会参加をさせていただきましたが、医療の最前線から日常診療で遭遇する疾患まで様々な知識を得ることができました。学会で得た知識を日々の診療に活かすとともに、次回は自分が発表する立場になるため研修に励んでまいります。



1年次 田部 主山

2024年12月5日～7日に福岡で開催された、第37回日本内視鏡外科学会に参加しました。

これまでに山陰内での地方会には数回参加させていただいたことはありましたが、全国規模の学会は初めての経験でした。

基本的な手技、希少な症例の発表を拝聴し、診療に対するモチベーションの向上につながるとも有意義な時間となりました。企業ブースでは最先端の技術に実際に触れて、医療技術の進歩を体感することができました。

また、現地では市立病院在籍の先生に加えて、大学病院で勤務されている先生方とも交流させていただき、今後の進路やキャリアに関するアドバイスもいただきました。

日々の診療と将来への希望に大きな影響を受ける、大変貴重な体験となりました。



1年次 田部 主山

1月の小児科研修中に辻先生にお声がけいただき、公民館での出前講座で簡単な発表をさせていただきました。

小児の感染症をテーマに事前に用意されたスライドを基に、自分なりに説明内容を考えての発表でした。担当したのは総論範囲で乳幼児を連れたお母さん方を対象とした発表は、できる限りわかりやすく簡潔にするよう努めましたがかなか難しいと感じました。

研修医は当直業務中に患者さんの診察後にご家族に症状と治療を説明することがしばしばあるので、市民の方々に医学知識を説明する機会は実際の診察に大きくつながる、貴重なものです。今回このような機会を設けていただいた辻先生、当日参加いただいた市民の皆様、ありがとうございました。



研修医を対象としたロボット手術トレーニングを開催しました。Da VinciのSurgeon consoleに搭載されたシミュレーターを用いて、ロボット手術の基本操作をトレーニングしました。参加した研修医の全員が、一度もDa Vinciの実機に触れた経験がなかったため、最初はとてもぎこちない動きでしたが、操作に慣れるに従ってスムーズにロボットアームを動かせるようになっていました。現在、外科系の多くの診療科においてロボット手術が普及していることから、外科系を志す研修医の多くは、ロボットの手技はもはや必須と認識しているようで、予想以上の反響でした。ももとは泌尿器科の研修医レクチャーとして開催したのですが、「研修を修了する頃には全員がDa Vinciを自在に操れる！」ということを目標に今後も定期的開催していきたいと思えます。

1年次 延岡 智子

1月23日に院内でトリアージ訓練が開催されました。

はじめに防災災害管理委員長の原田先生よりトリアージの概要説明を受けてから、START法で一次トリアージの練習を行いました。各テーブルに配られた症例が記載されたカードを交代で緑・黄・赤・黒と評価していきましたが、瞬間的に振り分けできるものから少し判断に迷うものもあり、その際はインストラクターの先生方からアドバイスいただきました。

次にトリアージタグに実際に書きこみ、それをグループ内で回していくことで現場⇒搬送中⇒医療機関の順で再評価し追記する流れを体験しました。まず手の上で書き込む際の複写がうまくいかなかったり、追記の情報で必要なことが抜けていたり、短時間で正確に行うことの難しさを感じました。実際トリアージの方法については、法整備が不十分であることやタグが同じでも重症度に幅があること、手書きのため訂正の使い勝手がよくないことなど課題があるということでした。

しかし、阪神淡路大震災で記録された映像も視聴し、1人でも多くの命を救うという目的において、これらの課題や心理的負担などはあるものの、トリアージはとても有意義であると思いました。そして正確に素早く評価を行えるよう、繰り返し訓練し、より有効にトリアージをすることが重要だと感じました。

また、訓練に加えて今回同じテーブル内で評価についてディスカッションや声掛けをする場面もあったのがよかったです。実施の際医師・看護師・救急隊員・消防職員など多職種の連携・協力が不可欠なため、実際の現場でもできたらいいなと思いました。

今後も機会があれば積極的に訓練に参加したいです。



みなさんのいいね！
フォローよろしくお願いします。

